

令和3年度中学生チャレンジテスト
(第1学年・第2学年)結果について

柏原市教育委員会

1. 調査目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 大阪府教育委員会が、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (3) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (4) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (5) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2. 調査概要

- | | |
|----------|--|
| (1) 調査日 | 令和4年1月13日(木) |
| (2) 対象学年 | 中学校第1学年及び第2学年の全生徒 |
| (3) 調査内容 | 第1学年…国語・数学・英語・アンケート調査
第2学年…国語・社会・数学・理科・英語・アンケート調査 |

★調査問題掲載先

令和3年度 大阪府中学生チャレンジテスト—調査問題・正答(例)について—

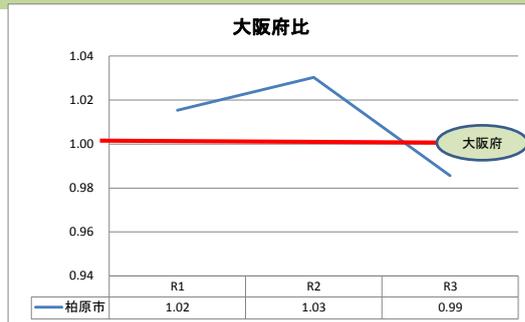
https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/challenge/challenge_03_mondai.html

1-1. 中1国語科調査結果

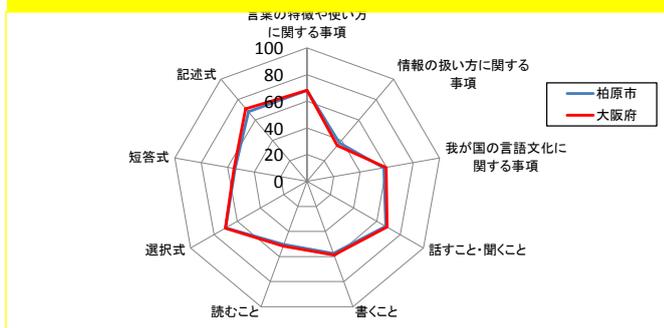
	平均正答率 (%)
柏原市	61.3
大阪府	62.2

分類	区分	対象設問数(問)	得点率		得点率府比	
			柏原市	大阪府		
学習指導要領の領域等	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	10	68.1	68.1	1.00
		情報の扱い方に関する事項	1	37.5	35	1.07
	思考力・判断力・表現力等	我が国の言語文化に関する事項	7	58	59.6	0.97
		話すこと・聞くこと	5	67.6	68.6	0.99
		書くこと	4	57.5	58.8	0.98
評価の観点	読むこと	8	50.3	51.6	0.97	
	知識・技能	17	63.1	63.9	0.99	
	思考・判断・表現	17	57.5	58.5	0.98	
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-	-	
問題形式	選択式	10	70.0	70.3	1.00	
	短答式	17	54.4	55.2	0.99	
	記述式	2	68.0	71.0	0.96	

★中学1年生 過去3年間の比較(府比)



◆領域別等のレーダーチャート

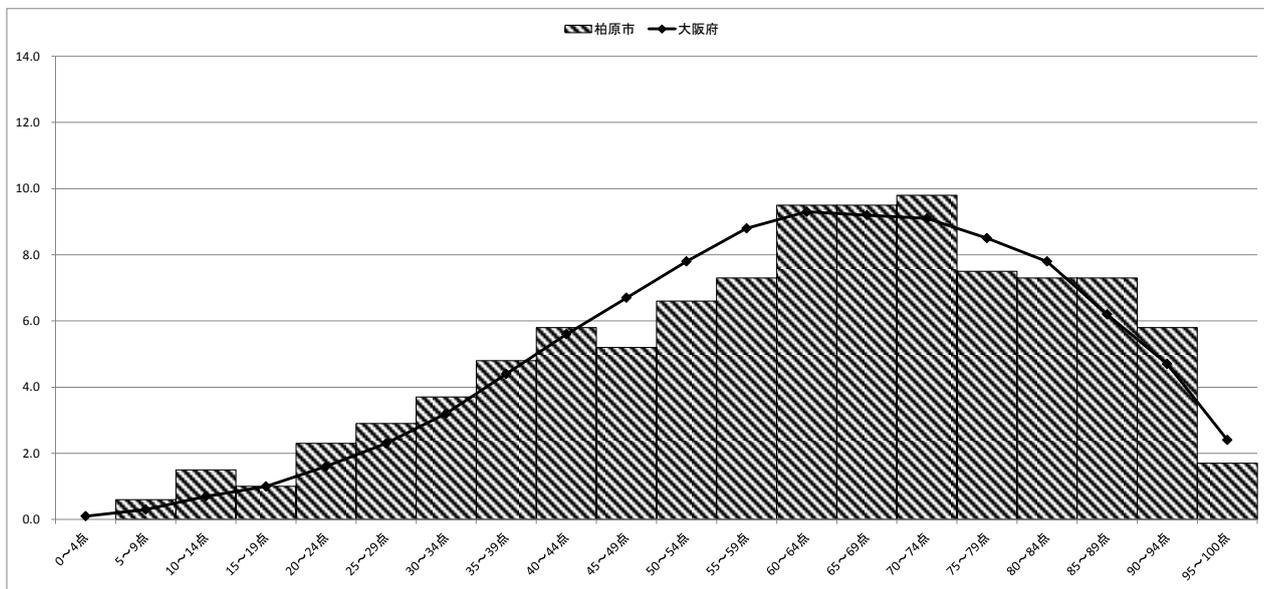


◆特徴的な傾向

- 学習指導要領の領域等「知識及び技能」の「情報の取扱い方に関する事項」の正答率において、大阪府を上回る結果となった。
- 得点別分布では「85点～94点」までの区分において、大阪府より多い割合である。
- ▼学習指導要領の領域等「思考力・判断力・表現力等」においては、すべての区分で大阪府を下回っている。
- ▼評価の観点においては、2つの観点両方において大阪府平均を下回っている。
- ▼得点別分布では「5～44点」の区分において、大阪府以上の割合である。

※ ○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合

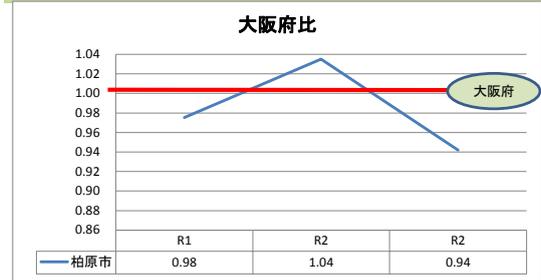


1-2. 中1数学科調査結果

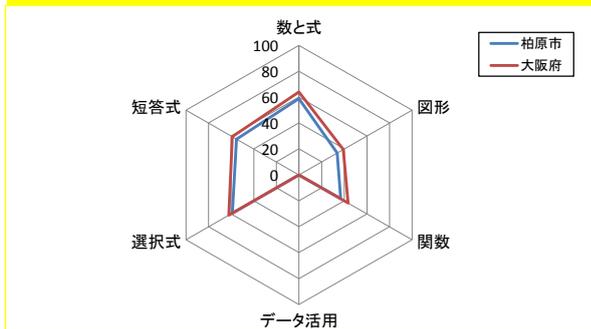
	平均正答率(%)
柏原市	55.1
大阪府	58.5

分類	区分	対象設 問数(問)	正答率		得点率
			柏原市	大阪府	
学習指導要領の領域等	数と式	16	58.7	63.9	0.92
	図形	6	33.8	39.2	0.86
	関数	10	36.7	43.3	0.85
	データの活用	-	-	-	-
評価の観点	知識・技能	27	61.1	64.7	0.94
	思考・判断・表現	5	29.5	32.1	0.92
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-	-
問題形式	選択式	16	59.0	62.1	0.95
	短答式	14	55.2	58.9	0.94
	記述式	2	32.5	35.0	0.93

★中学1年生 過去3年間の比較(府比)



◆領域別等のレーダーチャート

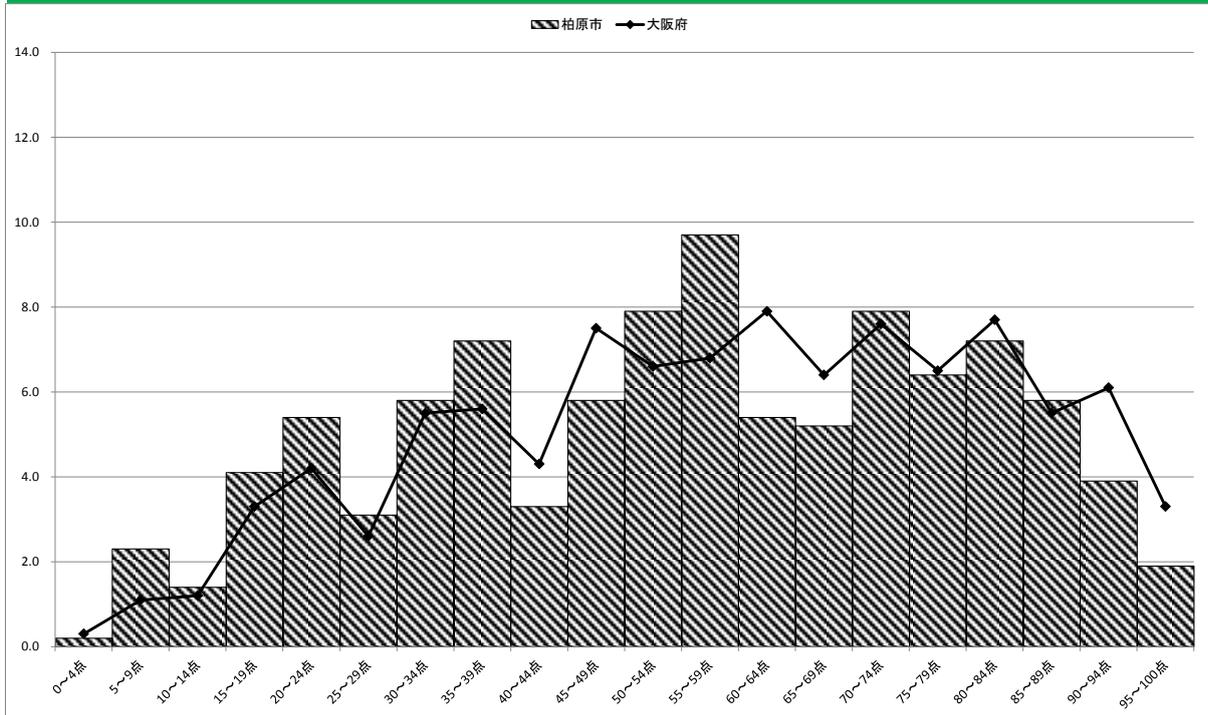


◆特徴的な傾向

- ▼学習指導要領の領域等については、全ての区分で大阪府を下回っており、5%以上の開きがある。
- ▼評価の観点においても、2つの観点の両方で大阪府を下回っている。
- ▼問題形式においても、全ての出題方法において大阪府を下回っている。

※ ○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



1-2-2. 数学科における課題の見られた問題について

【第1学年】

学習指導要領の領域等

数と式

平均正答率等

3 (1)	平均正答率	無解答率
柏原市	61.3%	13.0%
大阪府	71.6%	10.9%

正答

X=3

③ 次の問いに答えなさい。

(1) 一次方程式 $x + 3(2x - 5) = 6$ を解きなさい。

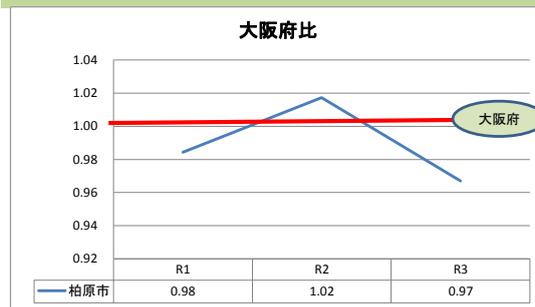
問題の概要は「一次方程式 $x + 3(2x - 5) = 6$ を解く」である。出題の趣旨は「一次方程式を解くことができる」である。平均正答率が大阪府の平均を大きく下回り、無解答率も大阪府の平均を上回っている。大阪府の正答率が70%の基本的な計算問題であるが、10%以上正答率が低いため、基礎的な計算の定着に課題があると考えられる。授業においては、既習単元の内容も振り返りながら基礎基本である計算問題の反復演習を積み重ねる必要がある。

1-3. 中1外国語(英語)科調査結果

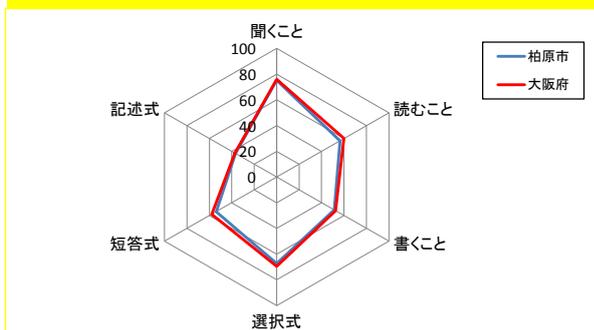
	平均正答率(%)
柏原市	61.4
大阪府	63.5

分類	区分	対象設問数(問)	正答率		得点率
			柏原市	大阪府	
学習指導要領の領域等	聞くこと	15	75.3	75.9	0.99
	読むこと	20	56.4	60.0	0.94
	話すこと[やり取り]	-	-	-	-
	話すこと[発表]	-	-	-	-
評価の観点	書くこと	7	51.3	52.6	0.98
	知識・技能	19	69.3	71.1	0.97
	思考・判断・表現	23	54.6	57.0	0.96
問題形式	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-	-
	選択式	34	67.3	69.5	0.97
	短答式	4	54.0	58.0	0.93
	記述式	4	36.7	37.3	0.98

★中学1年生 過去3年間の比較(府比)



◆領域別等のレーダーチャート

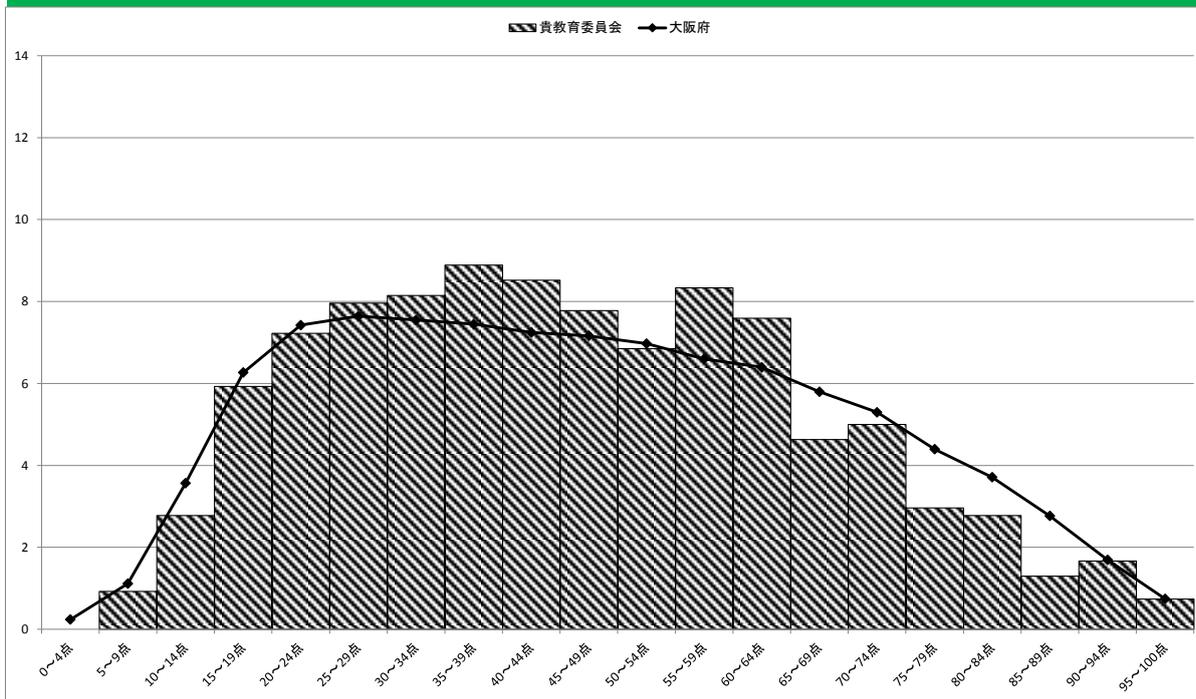


◆特徴的な傾向

- 問題形式においては、記述式での正答率は大阪府の平均との差が僅差である。
- ▼学習指導要領の領域等及び評価の観点のいずれの区分においても大阪府の平均を下回っている。
- ▼得点別分布では、「65点以上」の区分における割合は大阪府より少ない。また、「24点以下」の区分において、大阪府以上の割合である。

※ ○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



1-3-2. 英語科における課題の見られた問題について

【第1学年】

学習指導要領の領域等

読むこと

平均正答率等

8 (1)	平均正答率	無解答率
柏原市	55.9%	1.0%
大阪府	63.6%	1.1%

正答

ア

8 オーストラリア(Australia)に留学中のケンタ(Kenta)は、留学先の学校生活について報告する電子メールを、日本にいるALTのヒル先生(Ms. Hill)に送りました。【メール】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【メール】

Hello, Ms. Hill.

My school *life in Australia is good. Our *school uniforms in Australia are *good for sports. I have 6 *classes *a day, and I study 10 subjects in this school. *In the morning, we have *Morning Tea in this school, and we can eat food and *chat. I enjoy this time.

In this school in Australia, we don't have *school club activities and I have *free time after school. I can enjoy my free time with my friends, but I *miss school club activities. *Do you know why? I like basketball very much. In Japan, I can play basketball *as a school club activity in my school, but I can't play it as a school club activity here. I *want to play basketball with my friends here, too.

My friends and teachers in this school in Australia are very *kind to me. I enjoy my school life here.

*See you.
Kenta

(1) 次のア～エのうち、【メール】の内容と合わないものを1つ選びなさい。

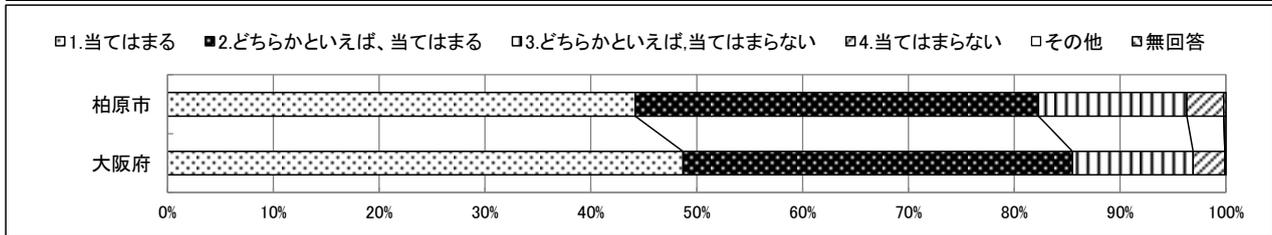
- ア ケンタが留学している学校の制服は運動に適していない。
- イ ケンタが留学している学校で、ケンタは、1日につき6つの授業を受けている。
- ウ ケンタが留学している学校のモーニングティーという休憩時間には、食事ができる。
- エ ケンタが留学している学校の友だちや先生は、ケンタにとっても優しい。

問題の概要は「メール文を読み、メールの内容と合わない日本文を選ぶ」である。出題の趣旨は「日常的な話題についてのまとまりのある文章の大切な部分を読み取り、内容の要点を適切に把握することができる」である。平均正答率が大阪府の平均を7%以上下回っている。文章全体の内容を読み取り、どのような状況かを理解する力に課題がある。授業においては、様々な分野の英文等の内容を要約する演習を積み重ねる必要がある。

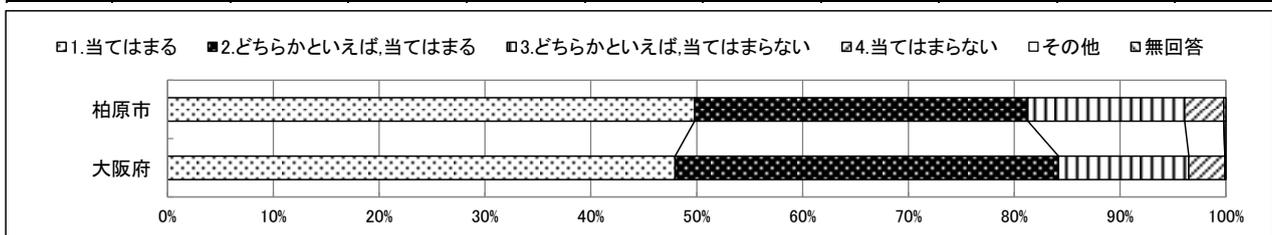
アンケート結果
柏原市教育委員会

	生徒数
柏原市	486

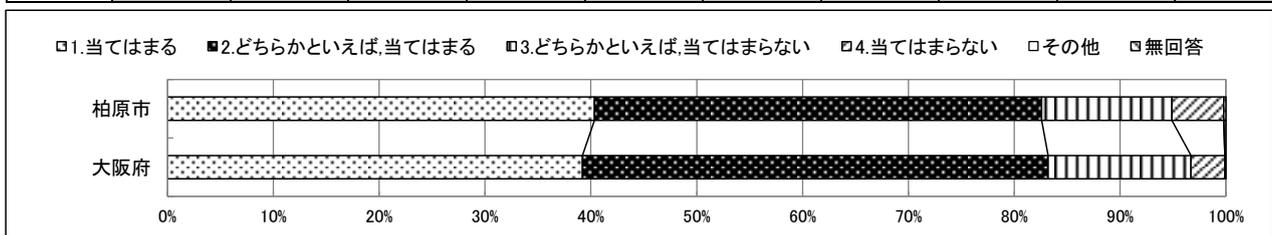
質問番号	質問事項									
問1	授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
柏原市	44.2	38.1	14.0	3.5	—	—	—	—	0.0	0.2
大阪府	48.7	36.8	11.4	3.0	—	—	—	—	0.0	0.1



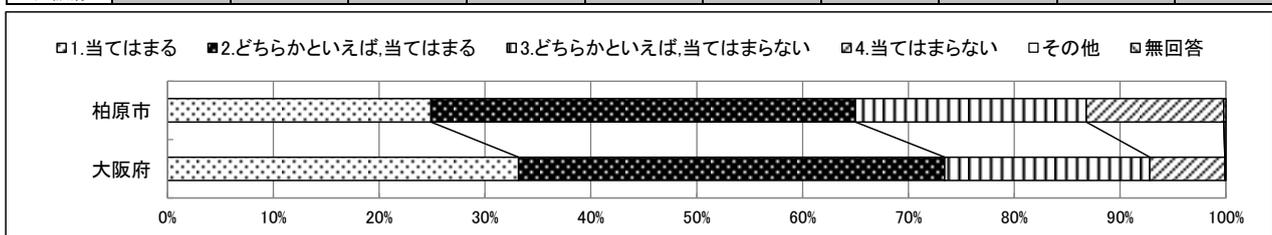
質問番号	質問事項									
問2	授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
柏原市	49.8	31.5	14.8	3.7	—	—	—	—	0.0	0.2
大阪府	47.9	36.2	12.3	3.4	—	—	—	—	0.0	0.1



質問番号	質問事項									
問3	授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
柏原市	40.3	42.2	12.3	4.9	—	—	—	—	0.0	0.2
大阪府	39.2	44.0	13.5	3.2	—	—	—	—	0.0	0.1



質問番号	質問事項									
問4	授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
柏原市	24.9	40.1	21.8	13.0	—	—	—	—	0.0	0.2
大阪府	33.2	40.3	19.4	7.1	—	—	—	—	0.0	0.1



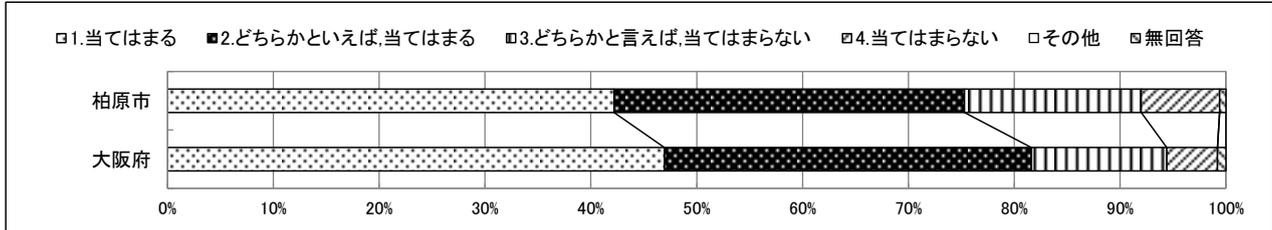
○「授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。」「授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。」の質問に対しては、「当てはまる」の回答が大阪府より多い。

▼「授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。」「授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。」の質問に対する肯定的回答が大阪府より少ない。

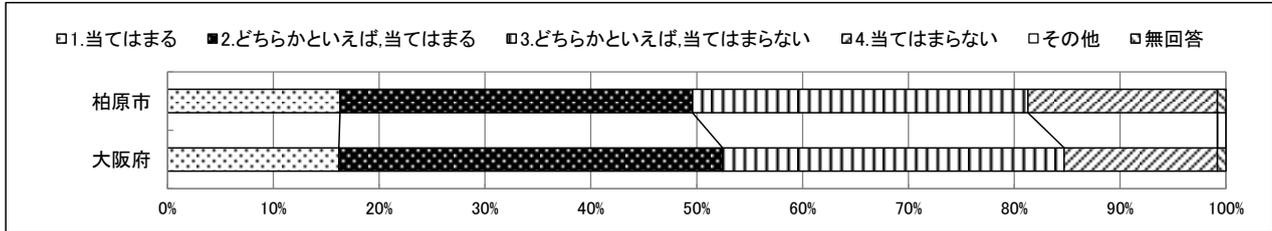
アンケート結果
柏原市教育委員会

	生徒数
柏原市	486

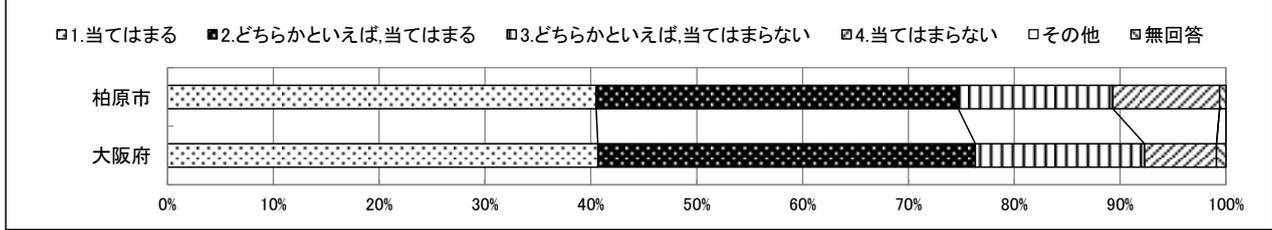
質問番号	質問事項									
問5	授業中、間違っても笑われない。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
柏原市	42.2	33.1	16.7	7.4	—	—	—	—	0.0	0.6
大阪府	47.0	34.7	12.8	4.8	—	—	—	—	0.0	0.8



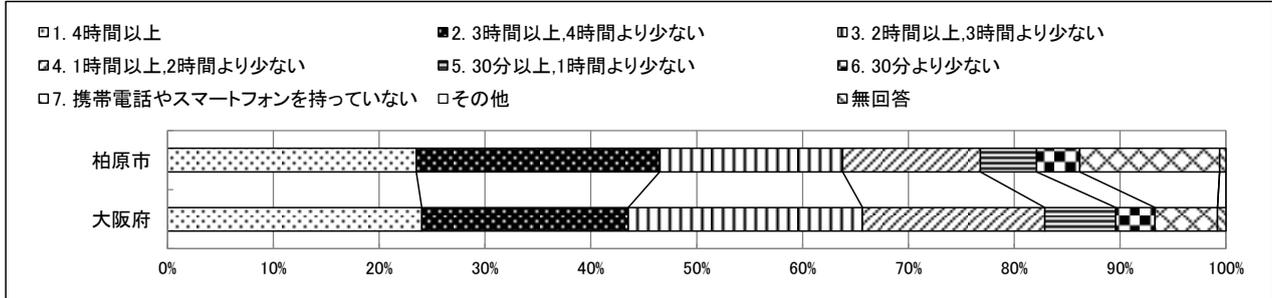
質問番号	質問事項									
問6	自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
柏原市	16.3	33.3	31.7	17.9	—	—	—	—	0.0	0.8
大阪府	16.2	36.3	32.3	14.5	—	—	—	—	0.0	0.8



質問番号	質問事項									
問7	テレビや新聞、インターネットなどのニュースを見る。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
柏原市	40.5	34.2	14.6	10.1	—	—	—	—	0.0	0.6
大阪府	40.7	35.7	16.0	6.8	—	—	—	—	0.0	0.9



質問番号	質問事項									
問8	普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
柏原市	23.5	23.0	17.3	13.0	5.3	4.1	13.2	—	0.0	0.6
大阪府	24.0	19.5	22.1	17.2	6.7	3.7	5.9	—	0.0	0.8



○「自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。」という質問に対する「当てはまる」の回答は、わずかに大阪府より多い。

○「普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。」という質問に対して、2時間以上と解答した割合を合計すると、大阪府を下回っている。

▼「授業中、間違っても笑われない。」という質問に対する肯定的回答は、大阪府平均より少ない。

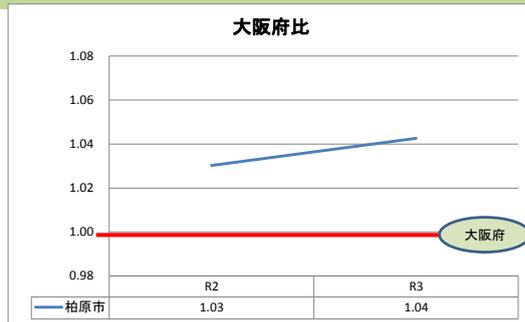
▼「テレビや新聞、インターネットなどのニュースを見る。」という質問に対する肯定的な回答は大阪府より少ない。

2-1. 中2国語科調査結果

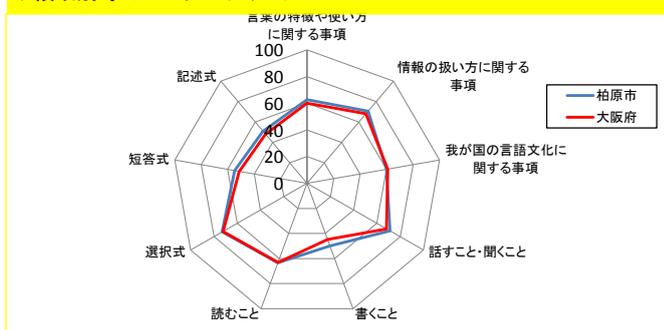
	平均正答率 (%)
柏原市	61.3
大阪府	58.8

分類	区分	対象設問数(問)	得点率		得点率府比	
			柏原市	大阪府		
学習指導要領の領域等	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	11	62.7	60	1.05
		情報の扱い方に関する事項	4	70.7	68	1.04
		我が国の言語文化に関する事項	6	60	61.0	0.98
	思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと	5	71.1	68.3	1.04
		書くこと	5	50.0	44.7	1.12
		読むこと	9	63.5	63.2	1.00
評価の観点	知識・技能	16	61.7	60.0	1.03	
	思考・判断・表現	19	61.8	59.4	1.04	
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-	-	
問題形式	選択式	12	72.9	72.1	1.01	
	短答式	17	54.6	51.2	1.07	
	記述式	2	51.0	48.0	1.06	

★同一生徒集団の経年比較(令和2年度～令和3年度)



◆領域別等のレーダーチャート

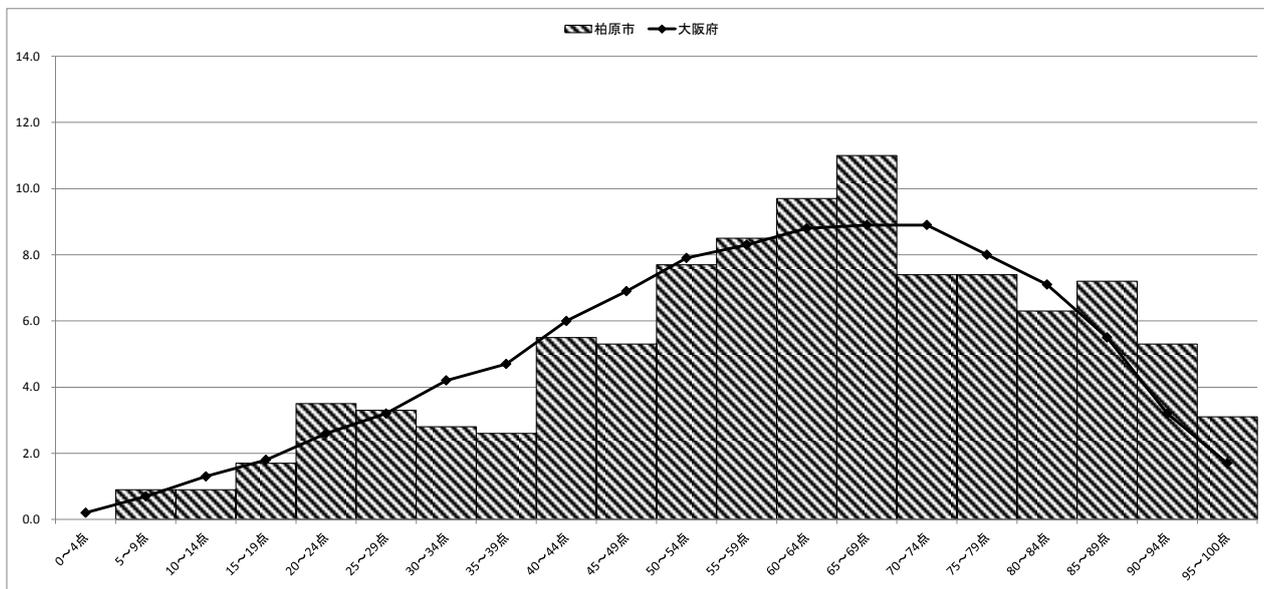


◆特徴的な傾向

- 学習指導要領の領域等の「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の取扱い方に関する事項」の正答率において、大阪府平均を上回る結果となった。
- 学習指導要領の領域等の「思考力・判断力・表現力等」の正答率は、すべての区分で大阪府平均を上回る結果となった。特に「書くこと」は5%以上回っている。
- 得点別分布では「85点～100点」までの区分において、大阪府より多い割合である。
- 同一生徒集団の経年比較において、府比で1年時より上昇が見られる。

※ ○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



2-1-2. 国語科における課題の見られた問題について

【第2学年】

学習指導要領の領域等

【思・判・表】読むこと

平均正答率等

三 五 い	平均正答率	無解答率
柏原市	25.6%	39.3%
大阪府	39.3%	40.0%

正答

出し入れする

著作権者への配慮から、問題本文の掲載は控えております。

5 次の文章は、本文の内容について書かれたものです。あ、い、う、え、おに当てはまる適切な言葉をそれぞれ本文中から抜き出しなさい。ただし、あは五字、いは六字で書くこと。

ものごとを発想するときには、頭の中に知識がない状態から生まれるのではない。頭の中にある自分の知識、あるいはその知識から自身が構築した理解といったものが結びついて、あが湧いてくるのである。

このように、頭の中の知識をい、ことができるというだけではなく、ものごとを発想するときにも頭の中の知識を用いることができるので、知識を頭の中に入れることには意味がある。

問題の概要は「本文中の内容について書かれた文章の空欄にあてはまる言葉を条件に従って書く」である。出題の趣旨は「文章の内容をとらえ、筆者の考えを理解することができる」である。正答率は大阪府の平均より高いが、数値としては低い問題となっている。題材となっている文章の趣旨を読み取り、問題となっている文章の内容を適切に理解した上で回答する力に課題がある。授業では、文章の中で筆者の主張したいポイント等を要約し、記述する等の学習活動が求められる。

2-2①. 中2社会科A調査結果

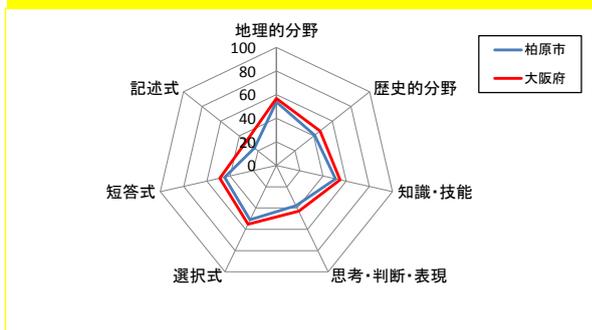
	平均正答率(%)
柏原市	47.9
大阪府	52.2

分類	区分	対象設問数(問)	正答率		得点率
			柏原市	大阪府	
学習指導要領の領域等	地理的分野	19	53.6	56.7	0.95
	歴史的分野	16	40.9	46.7	0.88
評価の観点	知識・技能	28	50.9	54.8	0.93
	思考・判断・表現	7	37.8	43.0	0.88
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-	-
問題形式	選択式	27	51.1	55.1	0.93
	短答式	6	44.7	48.8	0.92
	記述式	2	23.8	32.5	0.73

★同一生徒集団の経年比較(令和2年度～令和3年度)

※令和2年度(1年次)の社会科の調査はございません。

◆領域別等のレーダーチャート

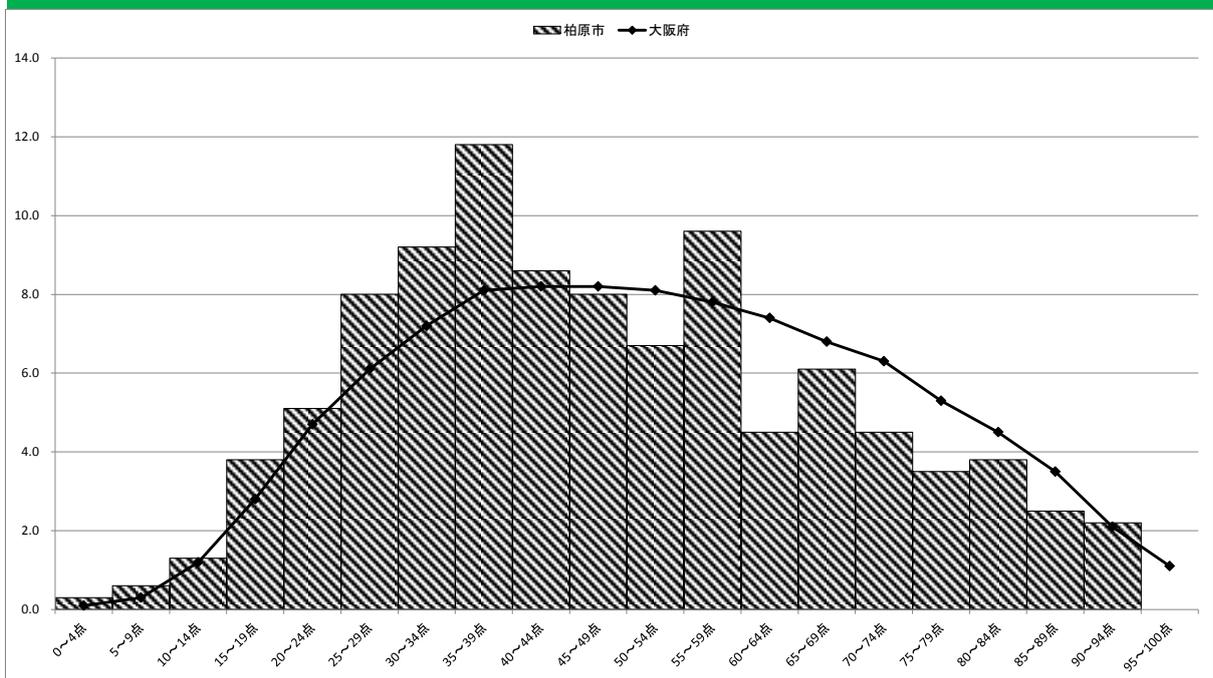


◆特徴的な傾向

- ▼学習指導要領の領域等の正答率について、両方の区分で大阪府平均を下回っている。
- ▼評価の観点においては、知識・技能、思考・判断・表現のいずれも大阪府を下回っている。
- ▼問題形式の正答率について、すべての区分で3%以上大阪府を下回っており、特に記述式については8%以上の差がある。
- ▼40点未満の低得点域への偏りがみられる。

※ ○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



2-2②. 中2社会科B調査結果

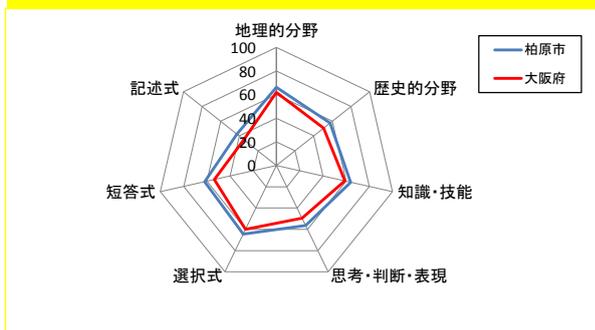
	平均正答率(%)
柏原市	62.3
大阪府	56.8

分類	区分	対象設問数(問)	正答率		得点率 府比
			柏原市	大阪府	
学習指導要領の領域等	地理的分野	19	66.2	61.8	1.07
	歴史的分野	16	57.6	50.7	1.14
評価の観点	知識・技能	28	64.0	59.0	1.08
	思考・判断・表現	7	56.5	49.6	1.14
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-	-
問題形式	選択式	27	64.4	59.9	1.08
	短答式	6	61.8	53.5	1.16
	記述式	2	42.5	35.0	1.21

★同一生徒集団の経年比較(令和2年度～令和3年度)

※令和2年度(1年次)の社会科の調査はございません。

◆領域別等のレーダーチャート

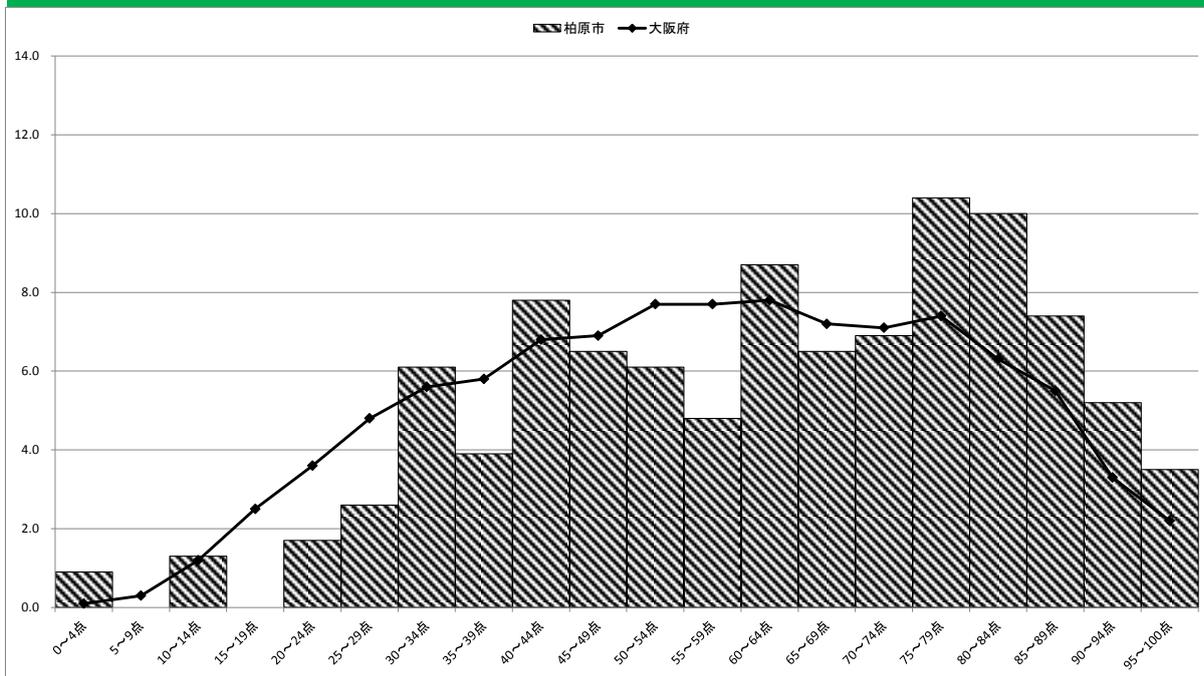


◆特徴的な傾向

- 学習指導要領の領域等の正答率において、どちらの区分においても大阪府を上回っている。
- 評価の観点の正答率において、どちらの区分も大阪府を上回っている。
- 問題形式の正答率において、すべての区分で大阪府を上回っており、特に「短答式」「記述式」においては7%以上の差がある。
- 得点別分布では「75点～100点」までの区分において、大阪府より多い割合である。

※ ○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



2-2-2. 社会科における課題の見られた問題について

【第2学年】

学習指導要領の領域等

地理的分野

平均正答率等

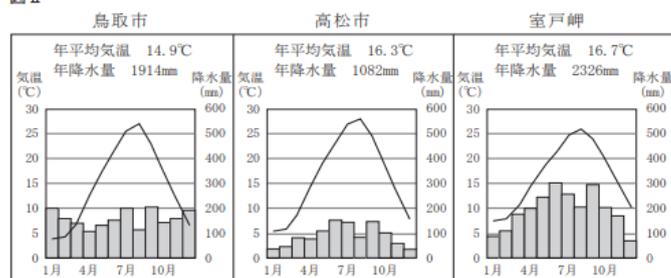
2 (1) ②	平均正答率	無解答率
柏原市(A選択)	20.7%	23.2%
大阪府(A選択)	32.2%	21.9%
柏原市(B選択)	41.6%	10.8%
大阪府(B選択)	35.7%	19.6%

正答

[例]季節風に含まれる水蒸気が、四国山地、中国山地で雨や雪として降水し、讃岐平野の降水量が1年を通して少なくなる。

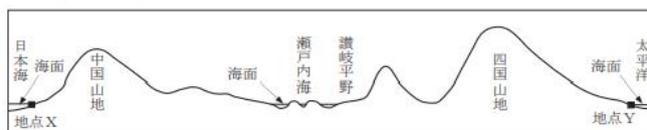
② 瀬戸内地域の自然環境について調べたやよいさんは、拡大図中の讃岐平野には古くから、いくつものため池があることが気になり、その理由を調べました。讃岐平野は、農業用水に利用できる大きな川がなく、1975年には吉野川から水を引いて、香川用水がつけられました。現在でも讃岐平野は農業用水の50%以上をため池に頼っています。図Ⅱは、鳥取市、高松市、室戸岬の雨温図です。図Ⅲは、図Ⅰ中の高松市を通り地点Xと地点Yを結ぶ点線が通る地点の高さを、模式的に表した断面図です。あとの問いに答えなさい。

図Ⅱ



〔理科年表平成29年〕により作成

図Ⅲ 模式的に表した断面図



問い 次の文は讃岐平野にため池がいくつもある理由について述べたものです。文中の□に入る適切なことばを、図Ⅱ、図Ⅲをもとに、讃岐平野の気候に影響を与える地形的特徴にふれて、あとの条件に従って書きなさい。

讃岐平野にため池がいくつもある理由は、大きな川がないこと他に、

□ からである。

条件 季節風の語を使い、60字以内で書くこと。

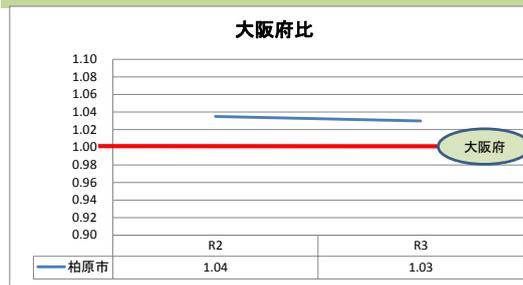
問題の概要は「讃岐平野にため池が多い理由を気候とそれに関わる季節風と地形的特徴をふまえて書く」である。出題の趣旨は「資料から読み取れることをもとに瀬戸内気候の特徴について考察し、季節風と地形的特徴に関連づけて説明できる」である。正答率についてはA選択の学校は大阪府の平均と比較すると大きく下回り、無回答率については大阪府の平均よりも上回っている。B選択の学校においても正答率は低い。知識的な分野について、社会的事項の内容の本質的な理解に課題がある。授業では、社会的事項の内容を正確に把握するとともに、各事項の関係性等を生徒自身が説明できるようにする学習内容を取り入れる必要がある。

2-3. 中2数学科調査結果

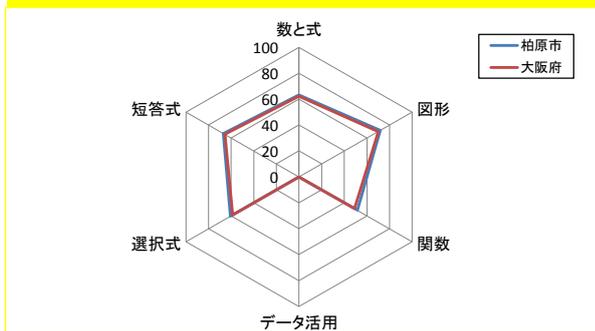
	平均正答率(%)
柏原市	61.9
大阪府	60.1

分類	区分	対象設 問数(問)	正答率		得点率 府比
			柏原市	大阪府	
学習指導要領の領域等	数と式	11	63.1	62.3	1.01
	図形	10	71.9	70.0	1.03
	関数	11	51.5	49.1	1.05
	データの活用	-	-	-	-
評価の観点	知識・技能	22	62.8	60.6	1.04
	思考・判断・表現	10	60.0	59.1	1.02
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-	-
問題形式	選択式	14	60.7	58.8	1.03
	短答式	16	66.9	65.6	1.02
	記述式	2	25.0	23.3	1.07

★同一生徒集団の経年比較(令和2年度～令和3年度)



◆領域別等のレーダーチャート

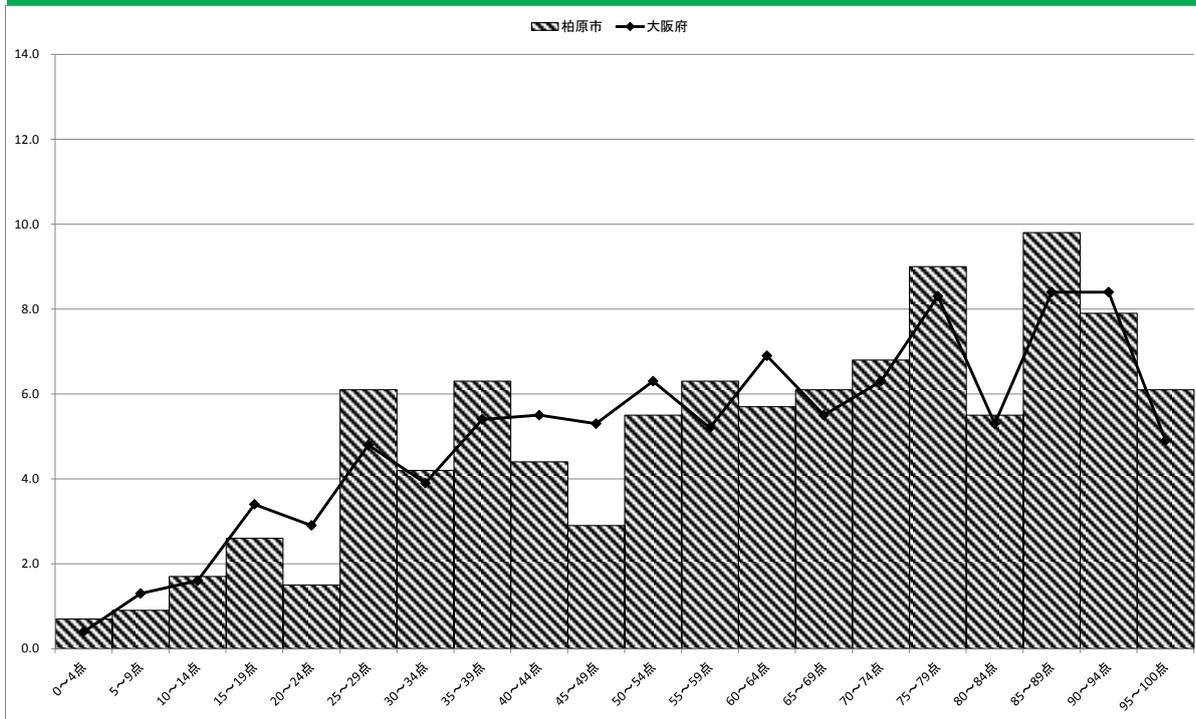


◆特徴的な傾向

- 学習指導要領の領域等の正答率において、すべての区分においても大阪府を上回っている。
 - 評価の観点の正答率において、どちらの区分も大阪府を上回っている。
 - 問題形式の正答率において、すべての区分で大阪府を上回っている。
- ▼同一生徒集団の経年比較において、府比で1年時よりわずかに下降している。

※ ○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



2-3-2. 数学科における課題の見られた問題について

【第2学年】

学習指導要領の領域等

図形

平均正答率等

6 (2)	平均正答率	無解答率
柏原市	68.7%	5.3%
大阪府	74.3%	6.7%

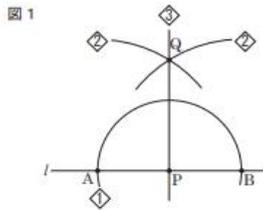
正答

3辺がそれぞれ等しい

⑥ ひろさんは、次の手順にしたがって直線 l 上の点 P を通る直線を図1のように作図しました。ひろさんは、作図した直線 PQ が直線 l の垂線であることを、証明の方針を立てて証明しました。あとの(1)、(2)の間に答えなさい。

手順

- ① 直線 l 上の点 P を中心として、適当な半径の円をかき、直線 l との交点をそれぞれ点 A 、点 B とする。
- ② 点 A 、点 B を中心として、互いが交わるように等しい半径の円をかき、その交点の1つを点 Q とする。
- ③ 点 P と点 Q を通る直線をひく。

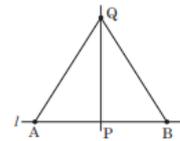


証明の方針

図2のように、点 A と点 Q 、点 B と点 Q をそれぞれ線分で結び、 $\triangle APQ$ と $\triangle BPQ$ をつくる。

- 直線 $l \perp$ 直線 PQ を示すためには、 $\triangle APQ$ と $\triangle BPQ$ において $\angle APQ = \text{□⑤□} = 90^\circ$ が成り立つことを示せばよい。

図2



- $\triangle APQ$ と $\triangle BPQ$ において、 $\triangle APQ \cong \triangle BPQ$ ならば、合同な図形の □④□ という性質から $\angle APQ = \text{□⑤□}$ が成り立つ。ゆえに、 $\triangle APQ \cong \triangle BPQ$ であることを示せばよい。

(2) ひろさんは、証明の方針にもとづいて、作図した直線 PQ が直線 l の垂線であることを次のように証明しました。

□①□ 中の □②□、□③□ には当てはまる辺を、また、□④□ には当てはまる合同条件をそれぞれ書き入れなさい。

証明

$\triangle APQ$ と $\triangle BPQ$ において

手順 ① から $PA = \text{□②□}$ ……①

手順 ② から $AQ = \text{□③□}$ ……②

共通な辺だから $PQ = PQ$ ……③

①、②、③より、
□④□ から $\triangle APQ \cong \triangle BPQ$

合同な図形の □⑤□ という性質から $\angle APQ = \text{□⑥□}$

$\angle APB = 180^\circ$ だから $\angle APQ = \text{□⑥□} = 90^\circ$

よって、直線 PQ は直線 l の垂線である。

問題の概要は「三角形の合同の証明で用いられている等しい辺や合同条件を書き入れる」である。出題の趣旨は「示された方針に基づいて証明することができる」である。平均正答率が大阪府の平均を下回っている。

無回答率は大阪府平均よりも低いため、三角形の合同条件については一定理解が見られるが、問題の内容に適合する条件を判断する力に課題があると考えられる。授業においては、合同条件を使って証明する問題の幅を広げ、演習を積み重ねる必要がある。

2-4①. 中2理科A調査結果

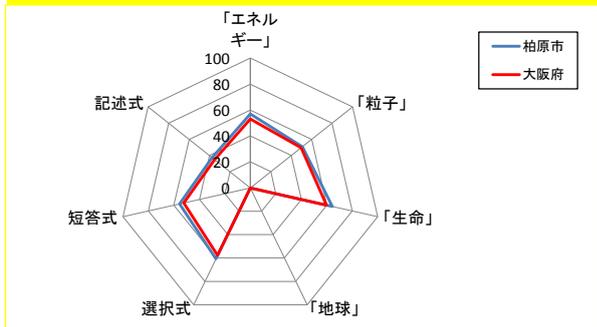
	平均正答率(%)
柏原市	57.4
大阪府	54.4

分類	区分	対象設問数(問)	正答率		得点率府比
			柏原市	大阪府	
学習指導要領の領域等	「エネルギー」	6	57.0	53.0	1.08
	「粒子」	12	50.8	49.5	1.03
	「生命」	13	64.3	59.8	1.08
	「地球」	-	-	-	-
評価の観点	知識・技能	17	69.2	65.5	1.06
	思考・判断・表現	14	44.9	42.7	1.05
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-	-
問題形式	選択式	20	60.6	57.7	1.05
	短答式	9	55.6	52.2	1.07
	記述式	2	37.5	35.0	1.07

★同一生徒集団の経年比較(令和2年度～令和3年度)

※令和2年度(1年次)の理科の調査はございません。

◆領域別等のレーダーチャート

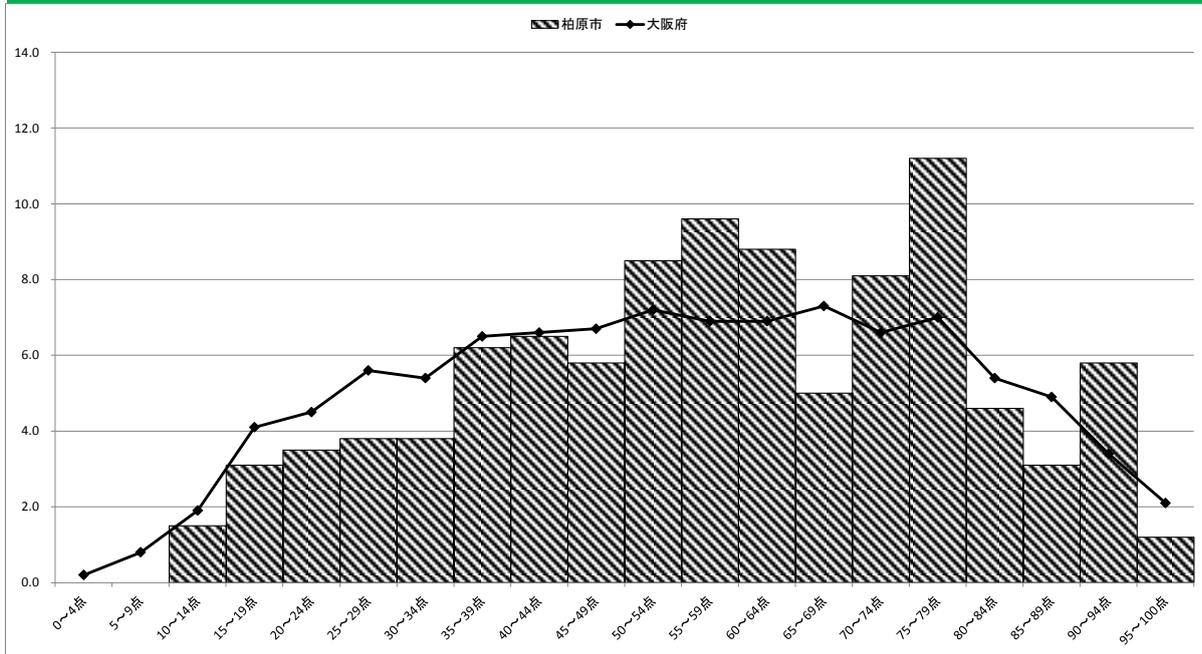


◆特徴的な傾向

- 学習指導要領の領域等の正答率において、すべての区分においても大阪府を上回っている。
- 評価の観点の正答率において、どちらの区分も大阪府を上回っている。
- 問題形式の正答率において、すべての区分で大阪府を上回っている。
- 得点別分布では「40点未満」の区分において、大阪府より少ない割合である。

※ ○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



2-4②. 中2理科B調査結果

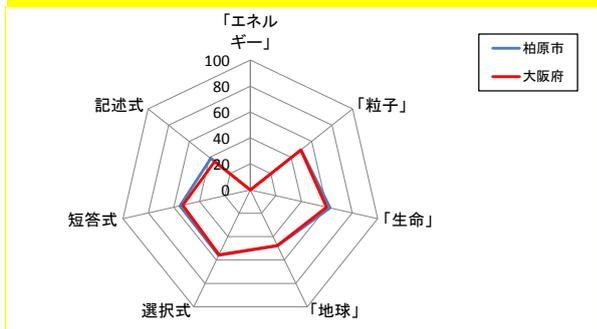
	平均正答率(%)
柏原市	54.4
大阪府	53.1

分類	区分	対象設問数(問)	正答率		得点率府比
			柏原市	大阪府	
学習指導要領の領域等	「エネルギー」	-	-	-	-
	「粒子」	12	49.5	49.3	1.00
	「生命」	13	62.5	59.8	1.05
	「地球」	6	48.0	47.5	1.01
評価の観点	知識・技能	17	67.1	64.9	1.03
	思考・判断・表現	14	41.2	40.8	1.01
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-	-
問題形式	選択式	20	56.0	55.4	1.01
	短答式	9	55.2	53.0	1.04
	記述式	2	38.8	35.0	1.11

★同一生徒集団の経年比較(令和2年度～令和3年度)

※令和2年度(1年次)の理科の調査はございません。

◆領域別等のレーダーチャート

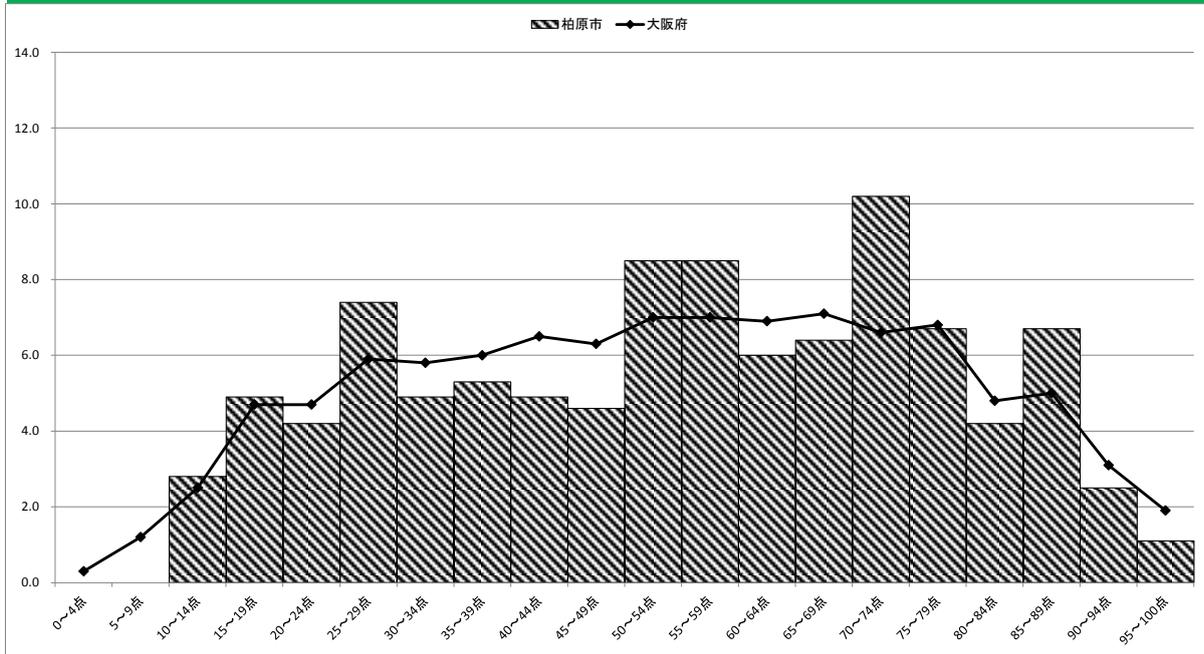


◆特徴的な傾向

- 学習指導要領の領域等の正答率において、すべての区分においても大阪府を上回っている。
- 評価の観点の正答率において、どちらの区分も大阪府を上回っている。
- 問題形式の正答率において、すべての区分で大阪府を上回っている。

※ ○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



2-4-2. 理科における課題の見られた問題について

【第2学年】

学習指導要領の領域等

平均正答率等

粒子

4 (3)	平均正答率	無解答率
柏原市(A選択)	12.7%	31.2%
大阪府(A選択)	14.4%	31.7%
柏原市(B選択)	16.6%	21.9%
大阪府(B選択)	13.6%	31.8%

正答【例】

生じた水や二酸化炭素が、気体として空気中に出ていく。

(3) さらに、たけしさんとみどりさんは、金属の酸化と有機物の酸化との違いについて話をしています。あとの【問い】に答えなさい。

【会話2】

たけしさん：木片などの有機物が燃えるときのように、物質が熱や光を出しながら激しく酸化される反応は、燃焼と呼ばれているね。

みどりさん：図3のように、ステンレス皿に木片を置いて、木片の燃焼前と燃焼後の質量をはかったら、燃焼前より燃焼後の質量の方が小さかったよ。

図3

たけしさん：マグネシウムや銅などの金属と違って、木片などの有機物は燃焼させると質量が小さくなるよ。このようになる理由の1つは、有機物を燃焼させると からだと考えられるね。

【問い】 たけしさんは、【会話2】中の下線部で、有機物を燃焼させると質量が小さくなる理由の1つを説明しています。次の<語群>から有機物を燃焼させると生じる2つの物質を選び、これらの2つの物質を用いて、【会話2】中の に入る適切なことばを30字以内で書きなさい。

<語群> 水素 水 二酸化炭素 酸素

問題の概要は「有機物を燃焼させると質量が小さくなる理由を、燃焼によって生じる2つの物質を用いて30字以内のことばで書く」である。出題の趣旨は「有機物を燃焼させると質量が小さくなる理由について、表現することができる」である。理科A選択の学校の平均正答率は大阪府の平均を下回っている。理科B選択の学校の平均正答率は大阪府の平均を上回っている。理科A、Bに共通しているのは、正答率が20%を切っており、無解答率が20%を超えている点である。資料に記載されている状況を読み取った上で、知識と結び付けながら説明する力に課題がある。授業においては、知識的な事項の名称や内容の理解だけに留まらず、言葉で説明をさせる演習問題を繰り返す必要がある。

2-5. 中2外国語(英語)科調査結果

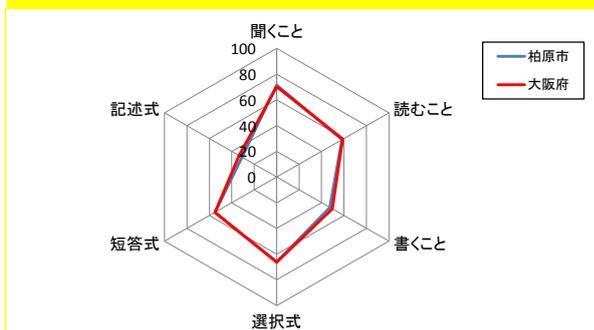
	平均正答率(%)
柏原市	57.8
大阪府	58.5

分類	区分	対象設問数(問)	正答率		得点率
			柏原市	大阪府	
学習指導要領の領域等	聞くこと	12	71.5	70.4	1.02
	読むこと	12	58.3	58.9	0.99
	話すこと[やり取り]	-	-	-	-
	話すこと[発表]	-	-	-	-
評価の観点	書くこと	13	47.4	49.5	0.96
	知識・技能	19	54.1	55.7	0.97
	思考・判断・表現	18	61.6	61.4	1.00
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-	-
問題形式	選択式	28	66.1	66.3	1.00
	短答式	1	55.0	55.0	1.00
	記述式	8	30.9	33.5	0.92

★同一生徒集団の経年比較(令和2年度～令和3年度)



◆領域別等のレーダーチャート

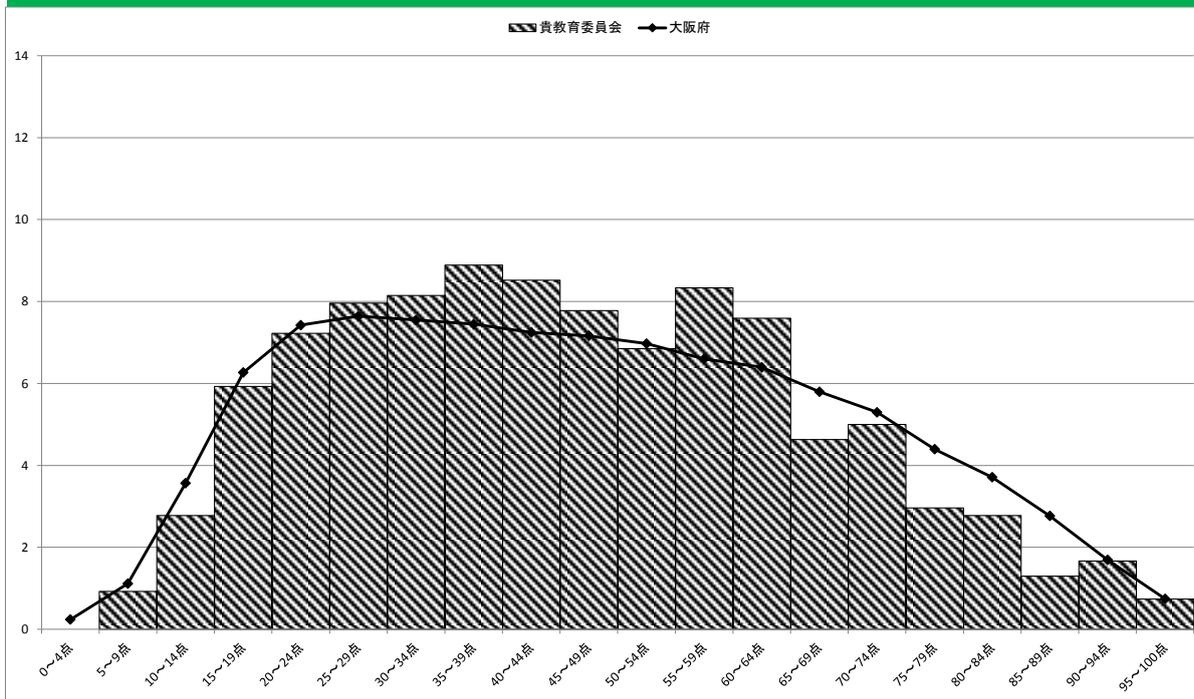


◆特徴的な傾向

- 学習指導要領の領域等の「聞くこと」の正答率においては大阪府を上回っている。
- 評価の観点の「思考・判断・表現」の正答率においては大阪府を上回っている。
- ▼学習指導要領の領域等の「読むこと」「書くこと」の正答率において、大阪府を下回っている。
- ▼評価の観点の「知識・技能」の正答率において、大阪府を下回っている。
- ▼問題形式の「記述式」の正答率において、大阪府より3%以上下回っている。
- ▼同一生徒集団の経年比較において、府比で1年時より下降している。
- ▼得点別分布の割合において、「65点以上」の区分における割合は大阪府より少ない。

※ ○印:成果 ▼印:課題

◆得点別分布の割合



2-5-2. 外国語(英語)科における課題の見られた問題について

【第2学年】

学習指導要領の領域等

平均正答率等

書くこと

5 (4)	平均正答率	無解答率
柏原市	18.3%	22.1%
大阪府	22.1%	20.5%

正答【例】

(It was cold every morning,but)running was fun(.)

⑤ たくや(Takuya)は、「私の冬休み(my winter vacation)」について、英語の授業でスピーチをするために、次の【メモ】を作成しました。【メモ】をもとに【スピーチ原稿】の下線部(1)～(5)に、それぞれ指示された語数の英語を入れて、【スピーチ原稿】を完成させなさい。

【メモ】

「私の冬休み」		
料理	毎週日曜日に家族の朝食を作った。	家族が「おいしい」と言ってくれて、私はうれしかった。
ランニング	毎日、朝早く公園で走った。なぜならこの春バスケットボール部で大きな試合があるからだ。	毎朝寒かったけれど、走ることは楽しかった。
新しいボール	私の誕生日に、兄が私に新しいボールをくれた。	私はそのボールをとっても気に入った。

【スピーチ原稿】

About my winter vacation

I'm going to tell you three things about my winter vacation.

First, I (1) (2 語) for my family every Sunday. My family said, "It's delicious," and I (2) (2 語).

Second, I *ran in the park early in the morning every day because our basketball team has a big *game (3) (2 語). It was *cold every morning, but (4) (3 語).

*Third, for my birthday, my brother *gave (5) (3 語) *ball. I liked it very much. My winter vacation was good. Thank you for listening.

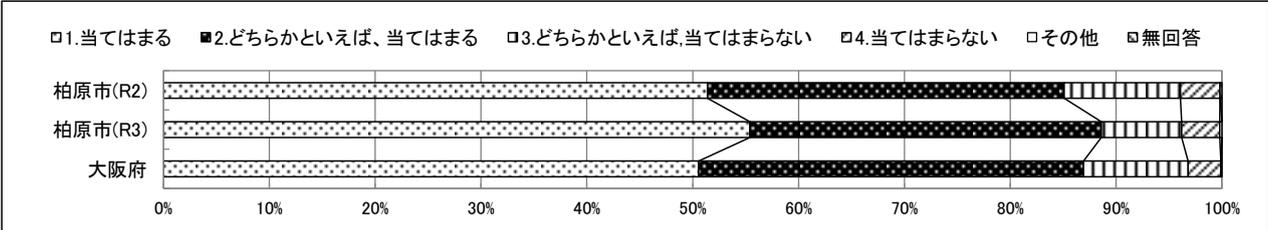
問題の概要は「メモをもとに、スピーチ原稿の下線部に指示された語数の英語を入れ、英文を完成させる(動名詞)」である。出題の趣旨は「スピーチ原稿において、与えられた情報に基づいて、指示された英文を正しく書くことができる」である。平均正答率は20%を切っており、大阪府の平均を下回っている。無解答率が大阪府の平均を上回っている。

文章の内容を正確に読み取った上で、どのような状況かを判断する力と、正しい英文として完成させる力に課題がある。授業においては、英文等で表現された資料から状況を読み取る練習を重ね、意図した文章で表現できる演習を積み重ねる必要がある。

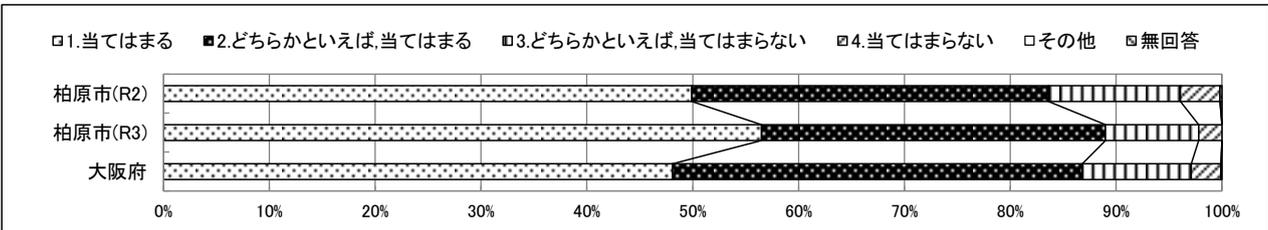
アンケート結果
柏原市教育委員会

	生徒数
柏原市	554

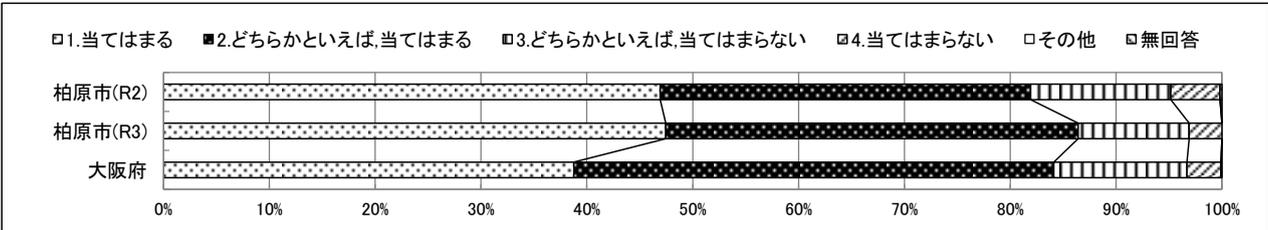
質問番号	質問事項									
問1	授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
柏原市(R2)	51.4	33.7	11.0	3.7	-	-	-	-	0.0	0.2
柏原市(R3)	55.4	33.2	7.6	3.6	-	-	-	-	0.2	0.0
大阪府	50.6	36.4	9.9	3.1	-	-	-	-	0.0	0.1



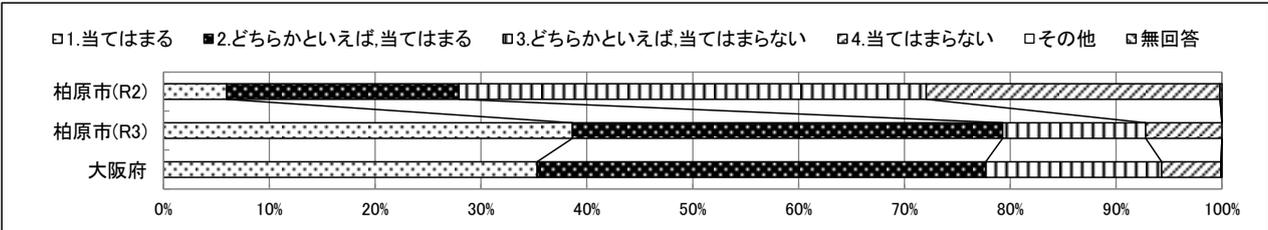
質問番号	質問事項									
問2	授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
柏原市(R2)	49.9	33.7	12.5	3.7	-	-	-	-	0.0	0.2
柏原市(R3)	56.5	32.5	8.8	2.2	-	-	-	-	0.0	0.0
大阪府	48.1	38.7	10.3	2.8	-	-	-	-	0.0	0.1



質問番号	質問事項									
問3	授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
柏原市(R2)	46.9	35.0	13.2	4.7	-	-	-	-	0.0	0.2
柏原市(R3)	47.5	39.0	10.5	3.1	-	-	-	-	0.0	0.0
大阪府	38.8	45.4	12.6	3.2	-	-	-	-	0.0	0.1



質問番号	質問事項									
問4	授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
柏原市(R2)	6.0	22.0	44.1	27.7	-	-	-	-	0.0	0.2
柏原市(R3)	38.6	40.6	13.5	7.2	-	-	-	-	0.0	0.0
大阪府	35.3	42.4	16.6	5.6	-	-	-	-	0.0	0.1



○「授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。」「授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。」「授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。」の質問に対しては肯定的回答が大阪府平均より多く、昨年度と比較しても増加している。

○「授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。」の質問に対する肯定的回答は大阪府の平均より多く、昨年度と比較するとおよそ3倍近く増加している。

○教育委員会としての今後の取組み

- ・教員の指導力育成のために、教員が主体性を持ち、参加できる研修を企画・運営していく
- ・チャレンジテストや全国学力・学習状況調査に共通して見える課題点をもとにした授業改善についての研修を進めていく
- ・「主体的・対話的で深い学び」を実現する視点に立った授業実践や公開授業をとおして、経験の浅い教員が授業改善を実践していくための視点を得られるようにする
- ・優れた実践をしている教員による研修や公開授業を実施するなど、経験の浅い教員にも高い指導技術が修得できる機会を設定する
- ・「(複数の)情報を読み取る力」の育成をねらった具体的な施策の提案・実施をしていく
- ・幼小中一貫教育をより一層推進し、系統性・連続性のある学びの研究を進める
- ・タブレットPCの持ち帰りによる学習も含め、家庭学習習慣の定着に向けた取組みの好事例を収集し、学校や保護者に啓発していく
- ・スマートフォンやSNSについて安全な使い方やリスクを学べる研修を実施する

○学校における今後の取組み

- ・指導力向上と授業改善が進むよう、校内研修や授業研究会を活用して、子どもたちにとっての『分かる授業づくり』を進める
- ・特にチャレンジテストの分析結果を、教科会等で話し合い、授業改善や各取組みに生かす
- ・低得点域の底上げと同時に、高得点域の伸長を図る
- ・「(複数の)情報を読み取る力」に焦点をあて、活動の充実を図る
- ・学んだ知識や(複数の)情報から読み取った内容をもとに考えたことを表現させる活動等を充実させる
- ・具体的な事象を式やグラフに表したり、根拠となるものを明らかにし、筋道を立てて説明するような活動を充実させる
- ・英語教育推進教員を中心に、外国語教育を充実させる
- ・ICT教育推進リーダーを中心に、ICTを活用した教育を充実させる

～ご家庭にお願いすること～

①基本的な生活習慣の定着

- ・決まった時間に寝起きしてリズムを意図的につくる
- ・体温のリズムやホルモンのバランスが崩れないよう、おおむね8時間以上の睡眠を取るよう促す
- ・朝食をとるよう促し、脳を生き生きとさせ、やる気や集中力を高め、学校での学習能力の向上につなげる

②家庭学習習慣の定着

- ・発達段階に応じて家庭学習時間のめやす(学年×10分)を決める
※中学第1学年生徒は、7年生とする
- ・毎日の宿題ができているかを確認する

③スマートフォンやゲーム等のメディアについてのルール作り

- ・テレビ、ゲーム、携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用時間や使い方について家庭内でよく話し合い、ルールを決める
- ・携帯電話やスマートフォンの使用状況について確認する